保健室

西伊豆町立賀茂中学校

養護教諭　佐藤幸江

本校は伊豆半島の西側に位置し、天然の良港を持つ安良里地区と黄金崎クリスタルパークを中心にガラス文化を伝える宇久須地区からなっています。生徒数は六五名の小規模校で小学校も同じ敷地内にあり、児童はそのまま全員本校に入学してきます。生徒は、純朴で言われたことはきちんと行い、素直でやさしい反面、集団が固定しているために切磋琢磨し合うことに弱さが見られます。

小規模校なので、保健室に来室する生徒は少ないのですが、毎年数名の不登校生徒や特別登校の生徒をかかえていますので、保健室での対応や問題などを出し合いながら職員やスクールカウンセラーと連携を図っています。

保健活動で特色あるものとしては、小中合同学校保健委員会があります。これは、小学校入学から中学卒業までの9年間を小中学校が連携しながら育てていこうという小中連携の取り組みの一つです。今年度で6回目となりますが、運営は小中の養護教諭同士で相談しながら開催しています。

平成十九年度からは参加者を両校の全職員とし、校医、歯科医、薬剤師を迎え、子どもたちのよりよい健康な体を求めて話し合いを持っています。テーマは「歯と口の健康について」「子どものストレスについて」「食から見直す子どもの健康」など、アンケートや健康診断の結果をもとに学校医や歯科医の講話を聞き、職員の健康理解　を深めています。

また、生徒数が少ないことを生かして、薬学講座を毎年全校生徒対象に開催しています。三年サイクルで「薬物について」「飲酒について」「たばこの害」と、学習内容が重ならないように分けて進めています。開催するに当たっては、校内の組織に企画立案をし、共通理解をした上で進めています。保健室からの健康課題に取り組むとき、養護教諭一人でなく、各組織と連携して進めていくことが重要だと思っています。

本校では食堂教室が設置されており、生徒と教師が全員そろって給食を食べています。家庭的な雰囲気で楽しく食事ができるのも小規模校のよさだと思っています。また、みんなで顔を合わせる場が持てることは、生徒理解の面からも非常に大切な時間と捉えています。

これからも、一人ひとりを大切にして、子どもたちが生涯を通して健康で安全な生活を送れるように支援していきたいと思います。

富士宮市立富士根小学校

養護教諭　内田智子

本校は富士宮市南東に位置しています。校章が「麦の穂」であることからも地域一帯が昔から農村地帯であることが分かります。現在も北東部、東部地域には茶畑が広がり、大室古墳や杉田用水など歴史を伝えるものが数多く見られ、伝統的な地域の祭りや行事も受け継がれています。

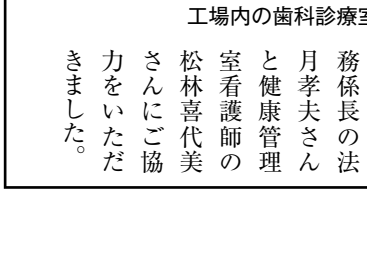
少子化の時代でありながら広大な学区のためか、児童数は増加傾向にあり、本年度は一一六三名（通常学級三一特別支援学級三）でスタートしました。

富士宮市のめざす子ども像「富士山を心に、夢を持って生きる子ども」を受け、本校でも生涯学習の基礎づくりのために健康でたくましい心と体をつくり、常に勤労の意欲と正しい選択をすることができる知恵と勇気を身に付けた子どもたちにしたいと全職員で取り組んでいます。

大規模校のため、複数配置は平成八年度より実施され、養護教諭が二人いることは子どもたちや保護者にとって自然に受け入れられています。本年度は一学期の来室者が三千人を超え、連日の健康診断を実施しながらの対応は複数配置であったからこそできたことだと思っています。瞬時に判断を迫られ養護教諭の専門性を問われることも度々ですが、お互いの経験と知識を総合して判断することでより良い結果を得ることができます。

先生方の協力により隔月に実施している体重測定は養護教諭が直接全校児童に保健指導できる大切な時間です。保健目標に沿った内容が基本ですがその時期の健康課題を取り上げ、より具体的で学年に合った内容を実施しています。しかし、家庭環境が複雑な子どもたちが増え、子どもの力ではどうすることもできないことがあります。子ども自身が自分の体に関心を持ち、自分の体や心を自分で守り、大切にすることができる健康教育が求められています。

休み時間や給食の時間は廊下も教室も子どもたちであふれています。職員室から少し離れた保健室は先生の目を盗んで？何となく立ち寄るのにはとても良い場所にあるようです。私たちが気づかないうちに一息ついて座っている子もいます。子どもの心の訴えは日々の健康観察や何気ない会話の中に見え隠れしています。一人のために費やす時間を惜しむことなく受け入れて、安心して学校生活を送ることができるような温かい保健室でありたいと思っています。



元気な事業所

TDK株式会社　静岡工場

（牧之原市女神31-1）

TDK静岡工場は、TDK株式会社2代目社長山崎貞一氏の地元であるこの地で昭和45年5月20日操業を開始しました。工場の敷地面積60,368㎡、建屋面積21,438㎡、280人の方々が働いています。生産品目のフェライトマグネットは、酸化鉄と炭酸ストロンチウムを配合・混合し、焼成等の工程を経て造られます。こうして出来上がったフェライトマグネットは、自動車やパソコンなどのOA機器、エアコン、冷蔵庫など家電用のマイクロモータの磁石として私たちの生活のあらゆる分野で使われています。

当工場での健康管理体制は、非常勤の産業医1名、非常勤歯科医1名、看護師1名、非常勤歯科衛生士1名となっています。特徴的なことは、週1回歯科医の治療が工場内に設けられた歯科診療室で受けられることです。

また週3日、歯科衛生士により、歯科医の診察にもとづき、歯垢の除去など歯のケアが行われています。

健康づくりとしては、健康保険組合主催のウォーキングキャンペーンを昨年から始め、今年も9月から3ヶ月間実施されます。1日1万歩を目途に、万歩計のデータをインターネットで健康保険組合に送ると、各自のデータを集計、ランキング付けされるとのこと。中には頑張って3倍、4倍もの歩数を記録し、キャンペーンが終わるころには大変スリムになり、血圧も下がったという方もいるそうです。3ヶ月間で91万歩達成した人の中から、抽選で話題のゲーム機「Wii」等景品が当たるとのこと。工場としても健康づくりを推進するため、独自に賞品を出すなど積極的に取り組んでいます。

安全衛生面では全社的取り組みとして、「TDK安全衛生憲章」を制定し、従業員がそれぞれの職務を最良の状態で遂行するために、安全で衛生的な職場環境の形成が重要な経営課題の一つと認識し、その実現に向けた取り組みを全員で実行することを基本理念として掲げ、全従業員に意識の徹底を図っています。

当工場ではフェライトマグネットの製造工程で材料を1000℃以上の高温で焼き固める作業など生産現場としてのリスクが生じるが、職場に潜むリスクを評価し、計画的にリスクを減らすための取り組みを着実に進めています。

工場内の歯科診療室

今回の取材に当たっては、TDK静岡工場人事二課総務係長の法月孝夫さんと健康管理室看護師の松林喜代美さんにご協力をいただきました。

女性特有のがん検診事業（無料クーポン券）をご存知ですか？

平成 21 年度より国の経済危機対策事業の一環として、市町村が実施するがん検診において、特定の年齢に達した女性に対して、子宮頸がん及び乳がんの検診費用が無料になる「がん検診クーポン券」が発行されます。

この事業は、受診率が低い女性特有のがん検診について受診率を向上させ、がんの早期発見と正しい健康意識の普及・啓発を図ることを第一の目的としています。がんは、わが国において、昭和５６年から死亡原因の第１位であり、がんによる死亡者数は年間３０万人を超える現状です。未来への投資に繋がる子育て支援の一環としても期待される事業です。子宮頸がん検診は、20 歳・25 歳・30 歳・35歳・40歳の方が対象となります。また、乳がん検診は、40歳・45歳・50 歳・55 歳・60 歳の方が対象となります。いずれの場合も平成21 年４月１日時点での年齢となりますので、注意が必要です。

各市町村から送付されたクーポン券（有効期限にご注意下さい）がお手元にある方は、是非この機会に市町村のがん検診を受診していただき、女性の皆様の健康管理にお役立てください。

（水谷）